

あまのがわ通信も45号続きました。4年余りにわたってお世話になりました。

最近は毎月発刊できなくてとびとびになりながらでしたが、多くの皆さんに支えられてきました。

今回「銀河の里」がスタートして3ヶ月を過ぎ、そろそろ里からの発信をしていきたいと考えています。

それに伴い、「あまのがわ通信」は廃刊し、新たな展開への区切りとしたいと思います。

これからは「銀河の里」の出来事を紹介しながら、生活や暮らしの様子を伝えていけたらと願っています。

今、銀河の里にはあわせて25人くらいの人々が住んだり通ってきたりしてすごしています。

始まったばかりで、何もかもこれからですがよろしく願います。



銀河の里では9人の高齢者がスタッフと共に生活するグループホームと、10人定員のデイサービスを運営しています。少人数で個別対応のできる施設らしさのしない暮らしの場を目指してスタートしたところです。

「さりげない当たり前」の生活の場」というのはなかなかこれまでの介護の現場では実現が困難な事柄とされているように感じます。

「銀河の里」では少し大きい程度 of 家庭の規模と人数の中でそれを実現しようと頑張っています。ここを介護をする場にせず、スタッフも介護する側に回ることなく、一緒に暮らし、一緒に生きることで関係性を生き相互の体験を積み上げていければと思っています。

そこで何が起こるのか、何が感じられるのか、何を得られるのかわかりませんが、これからの楽しみです。

少人数個別対応となると経営は厳しいので今後ともお米のご購入を通じてのご支援もよろしくお願いいたします。

銀河の里では「暮らし」がキーワードとなりそうです。畑や田んぼなどの農作業で、食べ物をつくったり、味噌造りや、漬物造り等、できること、したいことをできるだけ一緒にやっています。

これからも手探りですが、「関係性」を重視して「何をやるか」から「どうあるか」に視点をおいて進みたいと願っています。



あまのかわ短信 1

銀河の里も2年目の春を迎えました。

この5月25日に、盛岡で全国グループホーム協会のフォーラムが開催されるにあたり、事例発表をする予定で、準備に追われています。

そうした事情で歳時記がしばらくお休みになっていますが、来月あたりには復活するかと思います。再開を楽しみにしててください。

今、「銀河の里」は田植えの真っ最中です。5haのうち、後1haを残すところとなり、こちらも追っています。

男たちが田んぼで働いているからには、コビル（小昼＝おやつのこと）を届けなければならないと、利用者の方が作って届けてくれるのは感動です。



花見の一こま



4月の歓迎会にて



ヨモギ取り



近くのお寺に出かけて



ヨモギ餅作り



世間話



パークゴルフ



お茶の時間

「銀河の里」では岩手の自然の中で、四季を十分に味わいながら、暮らしを作っていこうとしています。

季節や農作業、暮らしなど、自然との関係性や、高齢者、若者、子供など、人と人の関係性に支えられながら、それぞれの存在感をどこまで高めることができるかということが、里の仕事の特徴だと思います。操作的な態度は排除し、どう在るかに、心を砕いていくあり方は、農業とも通じるものがあります。

あまのがわ短信 2

銀河の里の二度目の春は、農作業で、大忙しです。

田植えを一枚だけ残して、餅米を手植えで植えることになりました。

奇跡的に復活した、Kさんが、張り切って植えてくれたり。田植えなどしたことのない職員が、初めて田植えを体験したり。植え方は利用者の方からしっかりと教えていただきました。

田んぼの中に入れない人も、畦端で応援したり、おやつを作って届けたり、役割はそれぞれ様々です。

一人一人それぞれに、大きな存在感を感じるところが、たぶん大事なポイントなんだろうな。



全国グループホーム協会の大会が盛岡で開催されました。運営委員として、準備にも関わりました。

大会では事例を発表する事になり、必死にまとめました。

グループホームで起こっていることは、関係性の中で、紡がれる物語ではないかと思えます。病の部分を抱えるのは医療ですが、我々は、健康な部分に視点をもち、暮らしや、生活を作り上げていく作業をしていくところに特徴があるのだと思います。

そこでは、問題に対して、こうしたらこうなったというハウツー的な事柄とは違った、ストーリーが、必要なのではないかと考えています。

「我々がこう生きた」という関係性の物語が事例なのだと思えば、こうやればこうなりましたで話がまとまらないので、少し時間をかけた、発表の場が必要になります。

私は最低一時間は必要と考えています。

このことが、業界ではなかなか理解されません。一時間もの発表は飽きてしまう。とか、そんな長い文をまとめられる人はいないという意見が大半でした。

スタッフの中屋なつきがまとめた、原文は、読み上げるだけで、2時間半、これを今回割り振られた30分にまとめるのは大変な作業でした。事例は、深いところで、我々を育ててくれると実感しました。